

サステナビリティ マネジメント

「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって世界の食と健康に貢献することをめざし、「サラダ・ウェルネス・サステナビリティ」の価値創造の3つのドメインを軸に、社会価値と経済価値の両立を追求しています。サステナビリティを経営の中核に位置づけて、理念と規範の実践を通じて、グループ一丸となって推進していくことで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに持続的な成長を図っていきます。

キユーピーグループ サステナビリティ基本方針

経営の基本的な考え方と連動し、2025年度、サステナビリティ基本方針を改訂しました。この改訂により、経営とサステナビリティの取り組みの一層の統合を図り、持続可能な社会の実現と企業価値の向上をめざします。

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献

サラダとタマゴを中心に、食生活に関わる栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
プラスチックにおける循環型社会の実現のため、商品の環境配慮設計や社外との協働を進めます。
水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷を低減します。
需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。

気候変動への対応

原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO₂排出量削減をめざします。

持続可能な調達

安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

生物多様性の保全

生物多様性の負の影響を最小限に抑え、生態系の回復、再生に努めます。

人権の尊重

従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

サステナビリティ目標・進捗

	重点課題	取り組みテーマ	指標	2024年度 実績	2028年度 目標	2030年度 目標
	食と健康への 貢献 	健康寿命 延伸への貢献	お客様の健康な食生活に貢献するため、サラダの喫食機会向上、 タマゴの付加価値化を中心に取り組みを推進			
		子どもの心と 体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの 笑顔の数(2019年度からの累計)	46.3万人	80万人 以上	100万人 以上
	資源の有効活用・循環 	食品ロスの 削減・有効活用	食品残さ削減率(2015年度比)	60.6%	63%以上	65%以上
			野菜未利用部有効活用率 主要野菜:キャベツなど(当年)	85.3%	88%以上	90%以上
			商品廃棄量削減率 (2015年度比)	65.9%	70%以上	70%以上
		プラスチックの 削減・再利用	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	22.3%	25%以上	30%以上
		水資源の 持続的利用	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	7.8%	8%以上	10%以上
	気候変動への対応 	CO ₂ 排出量の 削減	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比)	44.4%	46%以上	50%以上
生物多様性の保全 	生物多様性の 保全	持続可能な紙の調達率 2025年度までに100% (容器包材、印刷冊子、 販促物、事務用品)	98.4%	100%	100%	
持続可能な調達 	持続可能な 調達の推進	お取引先との協働によって 「持続可能な調達のための基本方針」を推進				
人権の尊重 	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために 「キユービーグループ 人権方針」を推進				

※「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。
※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。
※2025年度より「健康寿命延伸への貢献」の指標を変更しています。
※2025年度より「CO₂排出量削減率」について、基準年の算出データの見直しを行い適応後の数値となっています。

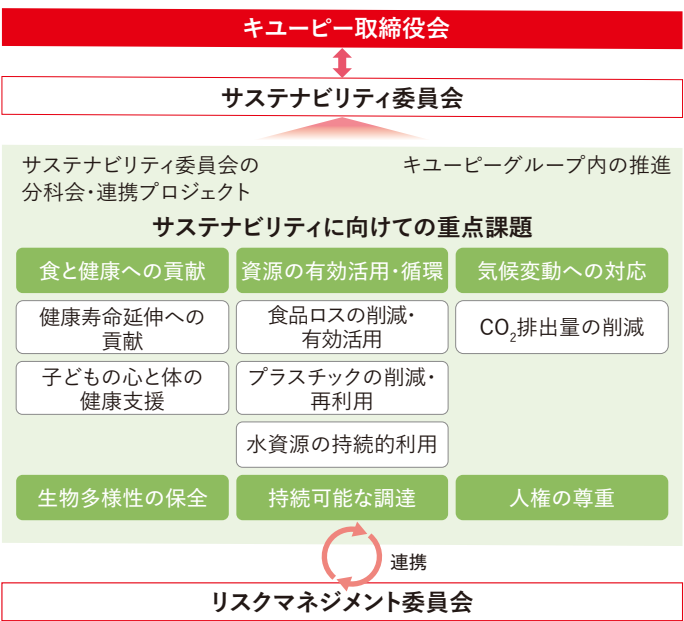
サステナビリティマネジメント

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会では、サステナビリティ担当取締役を委員長として、年4回開催しています。

サステナビリティに関する重点課題を議論し、目標達成に向けた方針・計画の策定と推進を行い、分科会やプロジェクトを通じてグループ全体への浸透を図っています。

さらに、リスクマネジメント委員会との連携により、環境変化に対応した経営基盤の強化を進め、サステナビリティ経営の実効性を高めています。



国連グローバル・コンパクト加盟

当社グループは、2025年2月に「国連グローバル・コンパクト (UNGC)」へ参加しました。



UNGCとは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。

「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を支持し、その実現に向けた取り組みを推進していきます。

加盟イニシアチブ一覧	
重点課題	主な加盟イニシアチブ
食と健康への貢献	健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ
資源の有効活用・循環	環境省ウォータープロジェクト クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)
気候変動への対応	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)
生物多様性の保全 持続可能な調達	自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) 経団連生物多様性宣言イニシアチブ 持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) 持続可能なパーム油のためのネットワーク (JaSPON) グリーン購入ネットワーク (GPN)

ESG関連指標と評価

- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- SOMPOサステナビリティ・インデックス
- CDP 気候変動「B」水セキュリティ「B」

表彰

- 第45回食品産業優良企業等表彰 環境部門 農林水産大臣賞 マヨネーズ残さをバイオガス発電に有効活用
- 食品産業新聞社 食品産業技術功労賞受賞 卵殻の利用を通じた持続可能な社会の実現



- 2024日本パッケージングコンテスト 食品包装部門賞 国内調味料初 100%再生PET樹脂のドレッシングボトル

サステナビリティマネジメント

サステナビリティ マネジメント

私たちは「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。原資材調達において品質だけでなく、環境や人権にも配慮した持続可能な調達を推進します。製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても、社会的責任を果たしていきます。

持続可能な調達のための基本方針

- 1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響やアニマルウェルフェアも考慮した管理を行う。
- 7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

キューピーグループ サプライヤーガイドライン

調達先である大切なお取引先に対し「キューピーグループ サプライヤーガイドライン」を定め運用を開始しています。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

キューピーグループ サプライヤーガイドライン

https://www.kewpie.com/sustainability/pdf/sustainability_20250116_supplier_guidelines.pdf

アニマルウェルフェアに関する考え方と取り組み

当社グループにとって鶏卵は、マヨネーズやタマゴ加工品の大切な原料です。持続可能な鶏卵の調達を考えるうえで、鶏卵の品質や環境に及ぼす影響、人権への配慮とともに採卵鶏のアニマルウェルフェアを重要な課題と認識しており、アニマルウェルフェアの向上を図る目的で、専門委員会を設けて検討を行っています。

日本国内では、調達先である養鶏事業者に対し、公益社団法人 畜産技術協会の「アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針」への準拠を確認しており、今後は2023年7月に農林水産省が制定した『採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針』への準拠状況も確認していきます。

海外では、各国・地域の基準や社会環境に合わせた対応を進めており、米国に続いて欧州でもキューピーブランドの商品に使用する卵原料は2025年までに100%ケージフリーのものに切り替えることを宣言しました。

引き続き、行政やサプライチェーンに関わる方々と連携して、アニマルウェルフェアの向上に取り組んでいきます。

アフリカのごま産地支援

日本のごま輸入において、アフリカからの輸入比率が増えています。アフリカでは安全な水の確保が課題となっています。当社は伊藤忠商事株式会社と連携して、ごま産地の1つであるトーゴ共和国に井戸を新設・整備し、支援を始めました。この支援により、農家の生活水準が向上し、作付けの増加や2～3時間かかる水くみ労働の軽減につながります。さらに、農家の子どもの就学支援にも寄与します。将来的にはごまの安定調達にもつながると考えています。



TOPICS